

地域連携推進会議

日時： 令和 8 年 7 月 15 日（水） 10：00～11：10 場所：第 2 会議室 記録者：水島

出席者 行政：筑後市福祉課障害者支援担当 青井氏

|              |                       |
|--------------|-----------------------|
| 地域代表：鶴田区行政区長 | 篠原氏                   |
| 利用者（仁愛荘）     | 中村氏、中垣氏               |
| 利用者（浩明寮）     | 原（情）氏、横山氏             |
| 家族（仁愛荘）      | 中村氏（母）                |
| 家族（浩明寮）      | 横山氏（弟）                |
| 施設（仁愛荘）      | 江崎（施設長）、永延（サービス管理責任者） |
| 施設（浩明寮）      | 藤村（施設長）、水島（サービス管理責任者） |

開会の挨拶（藤村施設長）

議題 1 地域連携推進会議の目的と役割

説明内容

令和 8 年度より、障害者支援施設における「地域連携推進会議」の開催が義務化された。

本会議は、

- ・ 利用者の地域生活に関する意向確認
  - ・ 地域との連携強化
  - ・ 施設運営の透明性向上
  - ・ 地域移行支援の推進
- } を目的として実施するものである。

利用者の地域生活への希望や地域移行の意向について、

- ・ 利用開始時
  - ・ 6 か月ごとのモニタリング（アセスメント）時
  - ・ 体験利用後
  - ・ 状況変化時
- } に確認を行う方針について説明あり。

今後の方針

利用者本人の意思決定を尊重しながら、行政・相談支援事業所・地域住民との連携により地域生活の選択肢を広げていく。

議題 2 施設運営状況及び活動報告

(1) 浩明寮の運営状況

利用者状況

- ・ 定員 60 名
- ・ 利用者 60 名
- ・ 平均年齢 64.4 歳
- ・ 男性 36 名、女性 24 名
- ・ 区分 6 利用者 48 名
- ・ 区分 5 利用者 11 名 \* 区分 5 以上の重度の方が 98%を占める障害者支援施設である。

稼働状況

- ・ 入所稼働率 97.6%
  - ・ 生活介護稼働率 98.4%
- 年間を通して高い稼働率を維持している。

入退所状況

- ・ 新規入所 3 名
- ・ 退所 2 名
- ・ 地域移行による退所実績なし
- ・ 退所理由は長期入院によるもの。

空床型ショートステイ

- ・ 稼働率 0.0 %

主な活動

日中活動

- ・ 入浴支援・リハビリテーション・レクリエーション・カラオケ・ロードワーク
- を定期的を実施。

季節行事

- ・ 節分・花見ドライブ・秋祭り・クリスマス会を実施し、季節の変化を感じられる支援を行った。

外出・買物支援

- ・ 利用者の希望に応じ、ショッピングセンター、ドラッグストア等への外出支援を毎月実施した。

食事関連行事

- ・ ショートケーキ、ミスタードーナツ、マクドナルド、草木饅頭等のスイーツ企画を実施し、利用者の楽しみづくりに取り組んだ。嚥下状態に応じた食形態に調整し、安全に実施した。

職員育成

- ・ 強度行動障害研修、ガイドヘルパー研修等に参加し、専門性向上に努めた。

(2) 仁愛荘の運営状況

利用者状況

- ・ 利用者 34 名
- ・ 平均年齢 66 歳
- ・ 男性 27 名
- ・ 女性 7 名
- ・ 区分 5・6 利用者が約 7 割を占め、重度化傾向がみられる。

稼働状況

- ・ 入所稼働率 84.8%
  - ・ 生活介護稼働率 113.8%
- 生活介護は高い利用実績となっている。

入退所状況

- ・ 新規入所 2 名
- ・ 退所 5 名

退所理由は主に長期入院であった。

機能訓練事業

- ・ 通所利用者の受け入れ
- ・ 一般就労への移行実績あり

ショートステイ

- ・ 稼働率 14.1%
- ・ 緊急受入れ対応あり
- ・ 地域在住者のレスパイト支援を実施している。
- ・ 地域在住障害者への支援機能を担っている。

主な取り組み

リハビリテーション

- ・ PT・OT による個別リハビリ
- ・ ニューステップ（リハビリ機器）導入
- ・ 身体機能維持・向上に取り組んでいる。

AI 活用

AI による議事録作成等を導入し、業務効率化と職員の利用者支援時間確保を進めている。

社会参加支援

- ・ マリンワールドへの日帰り旅行、UDe- Sports 実施（オンライン大会参加、地域向け体験会）を実施し、社会参加促進に取り組んだ。

出席者意見

活動報告については写真等を活用し、より視覚的に分かりやすい報告方法を検討した方がよいとの意見があった。

施設側より次年度以降改善する旨回答があった。

議題 3 地域移行に向けた支援の取り組み

利用者意向調査実施報告

令和 8 年 1 月～3 月に全利用者へ地域移行に関する聞き取りを実施した。

仁愛荘

| 希望内容         | 人数   |
|--------------|------|
| 今後も仁愛荘で生活したい | 22 名 |
| 将来的に自宅へ戻りたい  | 1 名  |
| 判断できない       | 6 名  |
| 家族と同居したい     | 2 名  |
| 一人暮らしを希望     | 1 名  |
| 意思確認困難       | 1 名  |

浩明寮

| 希望内容         | 人数   |
|--------------|------|
| 今後も浩明寮で生活したい | 32 名 |
| 将来的に自宅へ戻りたい  | 6 名  |
| 判断保留         | 4 名  |
| 家族と同居したい     | 1 名  |
| 家族の判断に任せる    | 1 名  |
| 意思確認困難       | 16 名 |

課題

- ・ 地域移行希望者への具体的支援は今後の課題
  - ・ 利用者の障害特性や身体状況に応じた支援体制整備が必要
  - ・ 行政・相談支援事業所・家族との連携強化が必要
- との報告が行われた。

---

#### 議題 4 地域社会との協力体制の構築

##### 地域との関係づくりについて

出席した行政担当者から、

- ・ 地域移行は利用者の退所促進ではない
- ・ 利用者本人の希望を実現するための環境整備である
- ・ 地域住民との交流が重要

との説明があった。

##### 今後の方向性

以下のような取り組みが提案された。

- ・ 地域行事への参加
- ・ 地域住民との交流機会創出
- ・ 利用者を地域住民に知ってもらう活動

を行うことによって、顔の見える関係づくりを段階的に進めていく必要がある。

##### 出席者意見

家族代表より

- ・ 今回の意向確認は非常に意義のある取り組みであった。

「今後も施設で暮らしたい」という回答だけでなく、「将来的には一人暮らしをしたい」

「自宅に戻りたい」といった希望が聞かれたことについて、家族が想像していなかった利用者の思いを知る機会になった。利用者の意思や願いを継続的に確認していくことは、本人理解を深める大切な機会になる。

---

#### 議題 5 意見交換

##### 地域移行について

地域住民代表より、

- ・ 地域移行支援については今後学びながら協力していきたい
- ・ 障害のある方の地域生活について理解を深めていきたい

との意見があった。

行政担当者からは、

- ・ まずは施設利用者を知ることが大切
- ・ 地域との交流を積み重ねることが地域移行につながる

との助言があった。

##### 災害時の地域連携について

施設側より、

- ・ 防災訓練への地域参加
- ・ 災害時の地域協力体制

について相談があった。

これに対し、

- ・ 地域との顔の見える関係づくりが重要
- ・ 災害時は地域住民と施設がお互いを支え合う体制が必要
- ・ 平常時から交流を重ねることが防災にもつながる

との助言がなされた。

---

#### 協議結果

1. 地域連携推進会議を継続的に開催する。
2. 利用者の地域移行に関する意向確認を定期的実施する。
3. 地域住民との交流機会を増やし、相互理解を深める。
4. 災害時の協力体制構築を視野に入れた関係づくりを進める。
5. 次回以降は写真等も活用し、活動報告を分かりやすくする。

#### 閉会

すべての議事を終了し、第 1 回地域連携推進会議を閉会した。その後、参加者による施設見学を実施した。

尚、本会議録は、今回ご出席して頂きました、筑後市福祉課障害支援担当様、鶴田区行政区長様、御家族様に郵送させて頂いております。

以上